

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **62171389 A**(43) Date of publication of application: **28.07.87**

(51) Int. Cl.

H04N 7/137
H03M 7/38
(21) Application number: **61013462**(22) Date of filing: **24.01.86**(71) Applicant: **NIPPON TELEGR & TELEPH
CORP <NTT>**
(72) Inventor: **KURODA HIDEO**
HASHIMOTO HIDEO
YASUDA HIROSHI
**(54) IN-FRAME PREDICTIVE VECTOR
QUANTIZATION AND CODING SYSTEM**

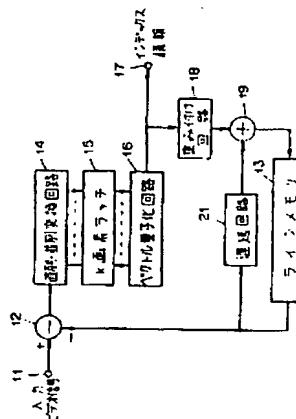
encoding.

COPYRIGHT: (C)1987,JPO&Japio

(57) Abstract:

PURPOSE: To reduce memory capacity, and to reduce the scale of a device and improve coding efficiency by performing the vector quantization of a predictive error signal in a frame.

CONSTITUTION: An input video signal inputted from an input terminal 11 is subtracted by a subtracting circuit 12 while a picture element value which is one line before is used as a predictive value, and every (k) picture elements are arranged in parallel. Then, a predictive error signal of (k) picture elements of a series-parallel converting circuit 14 is read in a (k)-picture-element latch 15 for every (k) picture elements corresponding to the number of dimensions of vector quantization and a predictive error signal of eight picture elements which is the output of the (k)-picture-element latch 15 is quantized by a vector quantizing circuit 16 into a vector. Thus, an in-frame predicted error signal is vector-quantized by plural picture elements at a time to perform high- efficiency



拒絶理由通知書

特許出願の番号 平成10年 特許願 第208366号
起案日 平成16年 2月12日
特許庁審査官 松永 隆志 4228 5P00
特許出願人代理人 國分 孝悦 様
適用条文 第29条第2項

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

この出願の請求項1、3～18、20～25に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

特徴量を用いたベクトル量子化は、引用文献1、2に記載されている。また、歪み部分歪みが最小歪みよりも大きな時に、それ以後の歪み計算を打ち切る行程は、引用文献3に記載されている。

この拒絶理由通知書中で指摘した請求項以外の請求項に係る発明については、現時点では、拒絶の理由を発見しない。拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

引 用 文 献 等 一 覧

1. 特開平8-317385号公報 (特に、【0094】図8参照)
2. 特開平7-311848号公報
3. 特開平5-37917号公報

先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野 I P C 第 7 版 H 0 4 N 7 / 0 0 - 7 / 6 8
D B 名

・ 先行技術文献

4. 特開平9-288656号公報

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第4部映像機器（テレビジョン） 松永隆志

TEL. 03（3581）1101（内線6973）

FAX. 03（3501）0715

拒絶理由通知書

特許出願の番号	平成11年 特許願 第067086号
起案日	平成16年 2月12日
特許庁審査官	松永 隆志 4228 5P00
特許出願人代理人	國分 孝悦 様
適用条文	第29条第2項、第37条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

A. この出願は、下記の点で特許法第37条に規定する要件を満たしていない。

記

請求項1、43に記載された発明と請求項2～42、44～80に記載された発明は、解決しようとする課題が同一でなく（下記の引用文献で未解決であった課題を共通の課題としていない。）、解決しようとする課題に対応した主要部も相違する。さらに、特許法第37条第3号、第4号、第5号に規定する関係のいずれを満たすものとも認められない。

この出願は特許法第37条の規定に違反しているので、請求項1、43以外の請求項に係る発明については新規性、進歩性等の要件についての審査を行っていない。

なお、請求項2～42、44～80に係る発明においても、明らかに単一性の要件を満たしていない。

補正をする場合は、請求項に係る発明が全体として単一性の要件を満たすように補正するとともに、意見書の中で、

- (1) 各請求項と、発明の実施の形態、図面の対応箇所
 - (2) 各請求項と、優先基礎となる出願の対応箇所、優先日を
- を一覧表等を用いて説明してください。

B. この出願の請求項1、43に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明に基いて、その出願前にその発明

1次元ラインブロックを用いたベクトル量子化は、引用文献1の(2)頁に記載されている。

拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

1. 特開昭62-171389号公報

先行技術文献調査結果の記録

- ・調査した分野 I P C 第 7 版 H O 4 N 7 / 0 0 - 7 / 6 8
D B 名
- ・先行技術文献

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第4部映像機器（テレビジョン） 松永隆志

TEL. 03 (3581) 1101 (内線6973)

FAX. 03 (3501) 0715

拒絶理由通知書

特許出願の番号 平成11年 特許願 第067086号
起案日 平成16年 5月13日
特許庁審査官 松永 隆志 4228 5P00
特許出願人代理人 國分 孝悦 様
適用条文 第29条第2項、第37条

<<<< 最 後 >>>>

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

A. この出願は、下記の点で特許法第37条に規定する要件を満たしていない。

記

所定の学習アルゴリズムを利用した更新処理を所定回数繰り返すことにより最適化されたコードブックは、引用文献2～4に記載されているから、特許請求の範囲は依然として単一性の要件を満たしていない。

この出願は特許法第37条の規定に違反しているので、請求項1、43以外の請求項に係る発明については新規性、進歩性等の要件についての審査を行っていない。

なお、請求項2～42、44～80に係る発明においても、明らかに単一性の要件を満たしていない。

B. この出願の請求項1、43に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

1次元ラインブロックを用いたベクトル量子化は、引用文献1の(2)頁に記載されている。

所定の学習アルゴリズムを利用した更新処理を所定回数繰り返すことにより最適化されたコードブックは、引用文献2～4に記載されている。

拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

引用文献等一覧

1. 特開昭62-171389号公報
 2. 特開平8-316842号公報
 3. 特開平6-237179号公報
 4. 特開平7-288474号公報
-

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第4部映像機器(テレビジョン) 松永隆志

TEL. 03(3581)1101(内線6973)

FAX. 03(3501)0715

最後の拒絶理由通知とする理由

1. 最初の拒絶理由通知に対する応答時の補正によって通知することが必要になった拒絶の理由のみを通知する拒絶理由通知である。